

28PA-am145

薬剤師の職能を最大限に活かしたフィジカルアセスメント研修会の実施とその評価
○大塚 進^{1,8}, 中馬 真幸¹, 岩淵 聡¹, 原田 大², 鈴木 善樹³, 山口 順子⁶, 雅楽川 聡⁷,
吉田 善一^{1,8}, 工藤 賢三^{4,8}, 岸野 亨^{3,8}, 西澤 健司^{5,8} (日本大板橋病院薬, ²東京慈恵会医
科大病院薬, ³埼玉医科大病院薬, ⁴岩手医科大病院薬, ⁵東邦大大森病院薬, ⁶日本大
医, ⁷公立阿伎留医療センター, ⁸私立医大病院薬剤部研究会)

【目的】私立医大病院薬剤部研究会では、2015 年度から蘇生をテーマに院内での急変時対応、様々な部門に勤務する中堅薬剤師を対象に職能を活かしチーム医療に参加できるフィジカルアセスメント研修会を開催している。ベッドサイドモニタの数値に頼らず五感を用いることを教育目標とした本研修会の有用性を検討したので報告する。【方法】2015 年から 3 年間本研修会に参加した病院薬剤師を対象にプレ・ポストアンケートを実施し、講義&実践形式の本研修前後での知識習得達成度、本研修の有用性を評価した。【結果】対象者は 83 名、アンケート回答率は 100%、経験年数は 6-10 年目が 52%、救命医療に携わった経験のある割合は 9%であった。1) 危機的な生理学的兆候の知識、2) BLS (Basic Life Support) の知識、3) 輸液投与に使用する器材の知識、4) 急変時の薬剤師の対応、全てで知識習得の回答が有意に上昇した。また、自由記述欄では「薬剤師として何をすべきか学ぶことができた」といったチーム参加する必要性を学べたとの意見があった。【考察】危機的な生理学的兆候は、講義形式で急変前後の異常を認識することを学び、BLS-AED、急変時の対応に必要な Primary ABCD はノンテクニカルスキル(コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ、状況確認、意思決定)を繰り返し実施することで、技能・知識を習得することが確認できた。また、実際に症例を実践し振り返りを行うことで、急変時に薬剤師の職能を活かし蘇生チームに参加するに必要な基本的能力を養成することができた。本研修会は、職能を生かし薬剤師の視点からチーム医療に参画することができるフィジカルアセスメントプログラムになると考える。